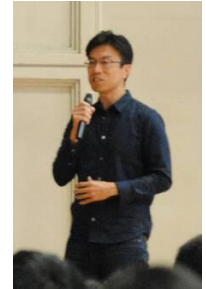


SG講演会⑤－1

日 時 平成28年5月25日（水）5校時（14：25～15：30）前半
場 所 丸亀高校 第2体育館
対 象 丸亀高校 1年生279名、教員16名
講 師 西成 典久 氏（香川大学経済学部 准教授）
演 題 「新地方時代における創造的まちづくり」
内容等

「人口減少」の身近な課題として丸亀市の「まちなか」が減少していること、「まちづくり」を考える際に大切なことは「どんな「まち」で暮らしたいか」そして「どんな「まち」にしたいか」であることは、生徒にとって、自分の「まち」についてよく知り考える、よいきっかけとなったようである。そして、都市の開発にあたり、あえて車道を歩道にすることで、人々が歩き、カフェへ行き、町が潤い、活性化している町が海外にあることに、海外の都市を知ることが日本人の暮らし方そのものを見直すことにつながることに気づいたようである。



「空き家の増加」「食の安全問題と低い自給率」などの日本の地域をめぐる諸問題は環境問題、食糧問題など国家的課題、地球規模の課題につながることで、「地域」の問題解決・魅力創造を狙いとした「コトをおこすヒト」（起業家マインド）が求められていること、大学のゼミの香川県内での取り組みなどは、生徒の「町づくり」に関わろうとする意欲を高めてくれたようである。

生徒の主な感想

- ・丸亀の中心部があんなに過疎となっているとは知らなかった。
- ・地域の町おこしのためにたくさんの人が考えてくれていることに気付いた。
- ・経済学には、町の人々の生活環境を変化させるという着眼点があることに驚いた。
- ・海外に目を向けることは、日本の暮らしを見直すことにもつながると感じた。
- ・外国と日本では文化だけでなく物事の考え方、捉え方が全く違うことに驚いた。
- ・日本では過疎と言われているような人口の町も、海外では生き生きしていることに驚いた。
- ・その地域の昔からの伝統を引き継ぐ必要がある。どんどん便利にしていくという考えだけではいけない。・地方の特性を生かすオンリーワンの地方創生という考えに共感した。
- ・自分たちが生活しているまちの良さをみつけることがまず必要だと思う。
- ・町の作り方が、人の活性や町の活性につながると思った。
- ・町をデザインしていきたいと思った。・町中が皆が集まれる場所になったらいいと思った。
- ・町並みをその地域の人で作ることで、新しい人を受け入れるだけでなく、その地域の人もその特色や利点について理解し、地元の若者ばなれも減少するのではないかと思う。
- ・町おこしはやりがいがあり、いいと思った。・創造的な考え方が大事だと分かった。
- ・コトを起こす能力をつけると思った。・視点を変えてみることも大切だと思った。
- ・「問題は何か」「問題に感じるか感じないか」を考えることが大切だと分かった。
- ・自分たちの町をどうしたいかをよく考え、自分たちの力で変えていかなければならない。
- ・衰退してしまった町を再開発するために様々な小さなことをすることができる。
- ・その土地でしか味わえないこと、することができないこと、見ることができないことを見つけ出し、どう人々に表現するかが大切ではないだろうか。
- ・「まち」はもともとあるものだと思っていたけど、「まち」を自分達の手で作っていくという考えがなかったなと思った。